



学校法人志賀学園
久之浜こども園
令和7年11月30日

年々秋が短くなり、園庭の木々の葉が、あっという間に散ってしまいました。そのような中、園では葉ボタンやパンジー、ビオラなど冬を越す花の苗の植え替えが始まり冬支度の準備が進められています。

園内は今、11月中旬に大流行したインフルエンザがピークを越え、ひとまず落ち着き、子ども達の元気な声が園舎内外に響いています。本格的な寒さが来る前の陽だまりの園庭ではサッカーや縄跳び、のぼり棒、吊り輪など活発に遊ぶ子ども達の姿が見られます。また、年長組のお部屋では、「わんぱくだんのりゅうぐうじょう」の絵本がきっかけとなり竜宮城に興味を持った子ども達。

「浦島太郎」の紙芝居や絵本を繰り返し見ながら話し合いを深めてきました。浦島太郎が3人、乙姫様が5人、カメが2人、エビが2人、タイが1人と配役に偏りはありますが、自分がなりたい役を選んだので「どんなストーリーにしようか…?」「セリフはどんなことを話そうか…?」と楽しそうに台本作りが始まりました。また、自分たちが踊るダンスの振り付けをしたり、さらには背景や小道具など必要な物を、子ども達が主体となって進めているところです。子どもは、日々の保育で営まれている「言葉」「表現」「人間関係」など、様々な領域が絡み合って相互に影響を与えながら成長していきます。生活発表会にはその成果が存分に発揮できることはもちろんのこと、それまでの過程を大切にていきたいと思っています。

生活発表会が終わると、もちつき大会があります。

もちつきは子どもたちに日本の伝統文化を伝える良い機会です。子どもたちは、蒸したもち米をまず食べてみます。それから臼と杵で捏ねて、ついて、返す一連の動作から餅が出来るという不思議な変化を目のあたりにします。そして、あんこ餅や、納豆餅、お雑煮を食べて味わうことで、米が育って餅になるまでを五感で感じることができます。このような体験の積み重ねが、子どもの育ちを助長します。お父様方で、もちつきのお手伝いをしていただける方は、是非ご協力をお願いします。

12月22日は冬至です。冬至は二十四節気のひとつで、一年でいちばん夜の時間が長く、昼の時間が短い日です。この日を境に少しづつ昼の時間が長くなっています。冬至の日にはカボチャを食べたり柚子湯に入って体を温めたりしましょう。柚子にはビタミンC、カボチャにはビタミンEやβカロチンが豊富なので免疫力を強化し風邪の予防になります。寒くなるこれからの時期、体を温めて風邪に負けない強い体をつくりましょう。